



ISA 製 PDU と Systemwalker との連携

対象 ISA 製 PDU

- ・PDU-5005(-F) 無電圧接点出力リモートパワーコントローラ
- ・PDU-5115S リモートパワーコントローラ
- ・PDU-5160S/5260S 大容量リモートパワーコントローラ
- ・model 7040 LAN 対応自動シャットダウン装置

1. PDU の出力チャンネル変化を Systemwalker へ SNMP トラップ通知する

出力チャンネルの変化や停電が発生した場合に、Systemwalker にトラップ通知を行なう方法について説明します。

- (1) 各 PDU 設定ツール内「SNMP トラップ設定」ページにて「SNMP トラップ通知先」に Systemwalker の IP アドレスを登録します。

ISA Series PDU-5000 設定ツール

SNMPトラップ設定

SNMPトラップ通知先

IP アドレス 1:	<input type="text" value="192.168.1.100"/>	テスト実行
IP アドレス 2:	<input type="text" value="0.0.0.0"/>	テスト実行
IP アドレス 3:	<input type="text" value="0.0.0.0"/>	テスト実行
IP アドレス 4:	<input type="text" value="0.0.0.0"/>	テスト実行
IP アドレス 5:	<input type="text" value="0.0.0.0"/>	テスト実行

ISA model 7040 設定ツール

SNMPトラップ設定

SNMPトラップ通知先

IP アドレス 1:	<input type="text" value="192.168.1.100"/>	テスト実行
IP アドレス 2:	<input type="text" value="0.0.0.0"/>	テスト実行
IP アドレス 3:	<input type="text" value="0.0.0.0"/>	テスト実行
IP アドレス 4:	<input type="text" value="0.0.0.0"/>	テスト実行
IP アドレス 5:	<input type="text" value="0.0.0.0"/>	テスト実行

(2) 各 PDU に用意されたアクション設定の「SNMP トラップ通知」を有効にします。

【PDU-5000 シリーズの場合】

「アクション一覧/設定」－（各項目の）「アクション設定へ」から「SNMP トラップ通知」のチェックボックスを有効にします。



isa Series PDU-5000 設定ツール

Power Management Solution

アクション設定

出力チャンネル 1	
メール送信	有効 <input type="checkbox"/>
メッセージ送信	有効 <input type="checkbox"/>
SNMPトラップ通知	有効 <input checked="" type="checkbox"/>
起動信号	有効 <input type="checkbox"/>

設定 キャンセル

※PDU-5115S/5160S/5260S は、チャンネル毎にアクションを設定することが可能ですので、要件に応じてそれぞれの設定をしてください。

【model 7040 の場合】

「アクション設定（自動運転）」から「SNMP トラップ通知」のチェックボックスを有効にします。



isa model 7040 設定ツール

Power Management Solution

アクション設定（自動運転）

メール送信	有効 <input type="checkbox"/>
メッセージ送信	有効 <input type="checkbox"/>
SNMPトラップ通知	有効 <input checked="" type="checkbox"/>
	有効 <input type="checkbox"/>

テスト実行 ファイル参照

以上の設定により、PDU の出力チャンネル変化や停電を検知した場合、Systemwalker へ SNMP トラップで通知を行います。送信トラップの内容は次項のとおりです。

【PDU-5000 シリーズ】

イベントID	内容
.1.3.6.1.4.1.1333.1.3.1.0.1	WEB ツールにて SNMP テスト実行
.1.3.6.1.4.1.1333.1.3.1.0.2	出力チャンネルの状態変化
.1.3.6.1.4.1.1333.1.3.1.0.3	出力チャンネル ON
.1.3.6.1.4.1.1333.1.3.1.0.4	出力チャンネル OFF
.1.3.6.1.4.1.1333.1.3.1.0.5	停電検知
.1.3.6.1.4.1.1333.1.3.1.0.6	停電回復検知 ¹²

※PDU-5005 (-F) は UPS との連携機能は無いため、「停電検知」「停電回復検知」のトラップはありません。

【model 7040】

イベントID	トラップ名称	内容
.1.3.6.1.4.1.1333.1.3.2.0.1	testTrap	テストトラップ
.1.3.6.1.4.1.1333.1.3.2.0.2	relayOn	AC 出力 ON
.1.3.6.1.4.1.1333.1.3.2.0.3	shutDown	AC 出力 OFF 準備
.1.3.6.1.4.1.1333.1.3.2.0.4	relayOff	AC 出力 OFF
.1.3.6.1.4.1.1333.1.3.2.0.5	reserveTrap5	未使用
.1.3.6.1.4.1.1333.1.3.2.0.6	dioEvent	外部入力イベント
.1.3.6.1.4.1.1333.1.3.2.0.7	thMeasureEvent	温湿度センサ入力イベント
.1.3.6.1.4.1.1333.1.3.2.0.8	powerFailure	UPS 停電信号検知
.1.3.6.1.4.1.1333.1.3.2.0.9	powerFailureRemoved	UPS 停電信号回復
.1.3.6.1.4.1.1333.1.3.2.0.10	powerOnState	PowerOn ステート
.1.3.6.1.4.1.1333.1.3.2.0.11	powerOffState	PowerOff ステート

2. イベント発生時に PDU の出力チャンネルを ON/OFF する

Systemwalker にてイベントが発生した場合に、PDU の出力チャンネルを自動的に制御する方法について説明します。

PDU の設定

(1)各 PDU に用意された「コマンドアクセス設定」ページの「ユーザ名」の欄に「SYSTEM」アカウントを登録します。

(「SYSTEM」アカウントは Windows OS で Systemwalker のサービスを制御しており、コマンド実行などのイベントアクションも「SYSTEM」アカウントを用いて実行されます。)

isa **Series PDU-5000** 設定ツール

Power Management Solution

コマンドアクセス設定

ユーザ名: 1 root

ユーザ名: 2 Administrator

ユーザ名: 3 **SYSTEM**

ユーザ名: 4 root

ユーザ名: 5 root

isa **model 7040** 設定ツール

Power Management Solution

コマンドアクセス設定

ユーザ名: 1 root

ユーザ名: 2 Administrator

ユーザ名: 3 **SYSTEM**

ユーザ名: 4 bin

ユーザ名: 5 root

※「model 7040」は初期状態で「SYSTEM」アカウントが登録されています。

(2)PDU を動作させるためのバッチファイルを任意の場所に作成して保存します。

バッチファイルの内容

例1) 出力チャンネルを ON にする

```
rsh {IP} acon
```

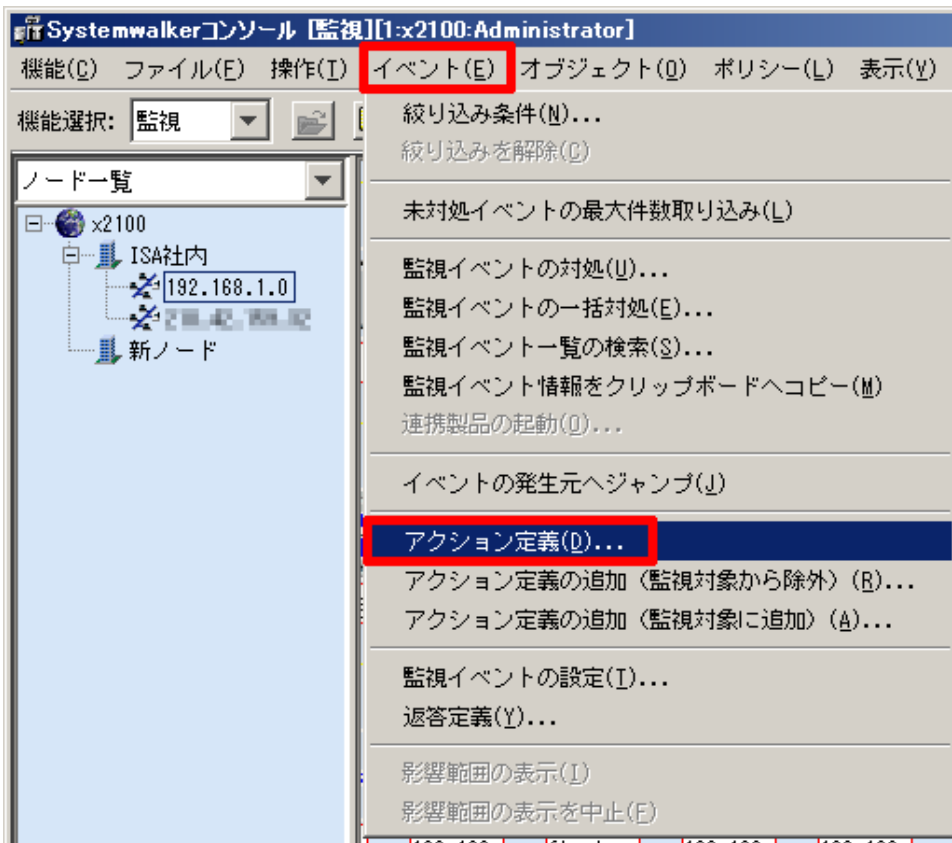
例2) 出力チャンネル 2 を電源リサイクルする

```
rsh {IP} rly2 Recycle
```

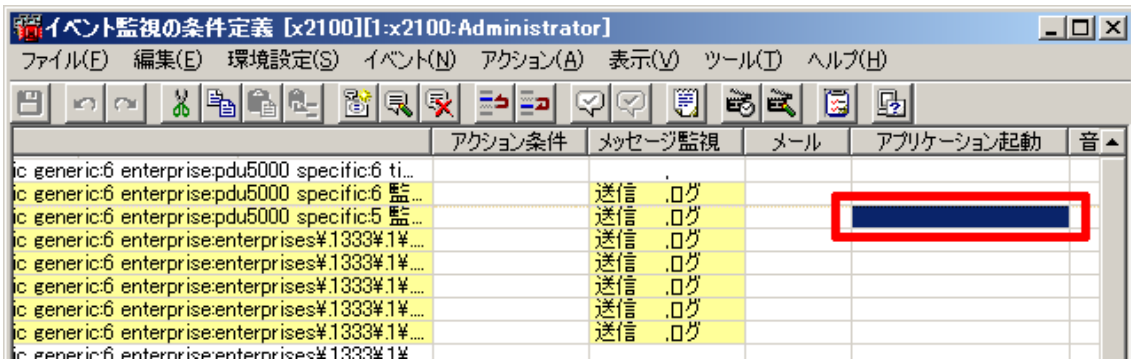
※バッチファイルに記述するコマンドの詳細については、各 PDU のコマンドリファレンスを参照してください。

Systemwalker の設定

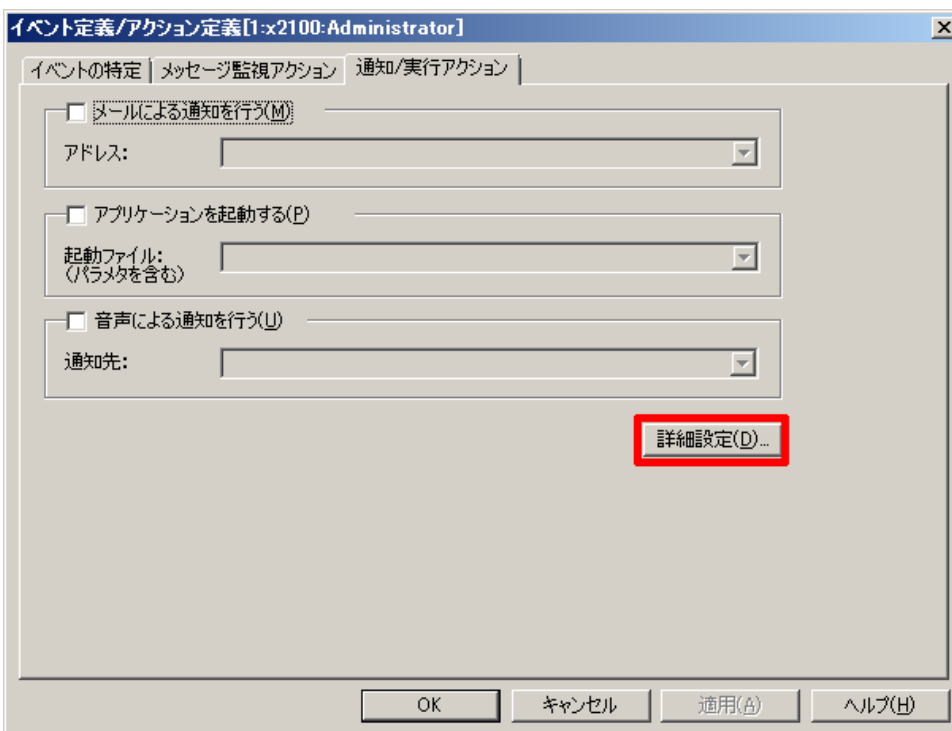
(1)「イベント」－「アクション定義」をクリックします。



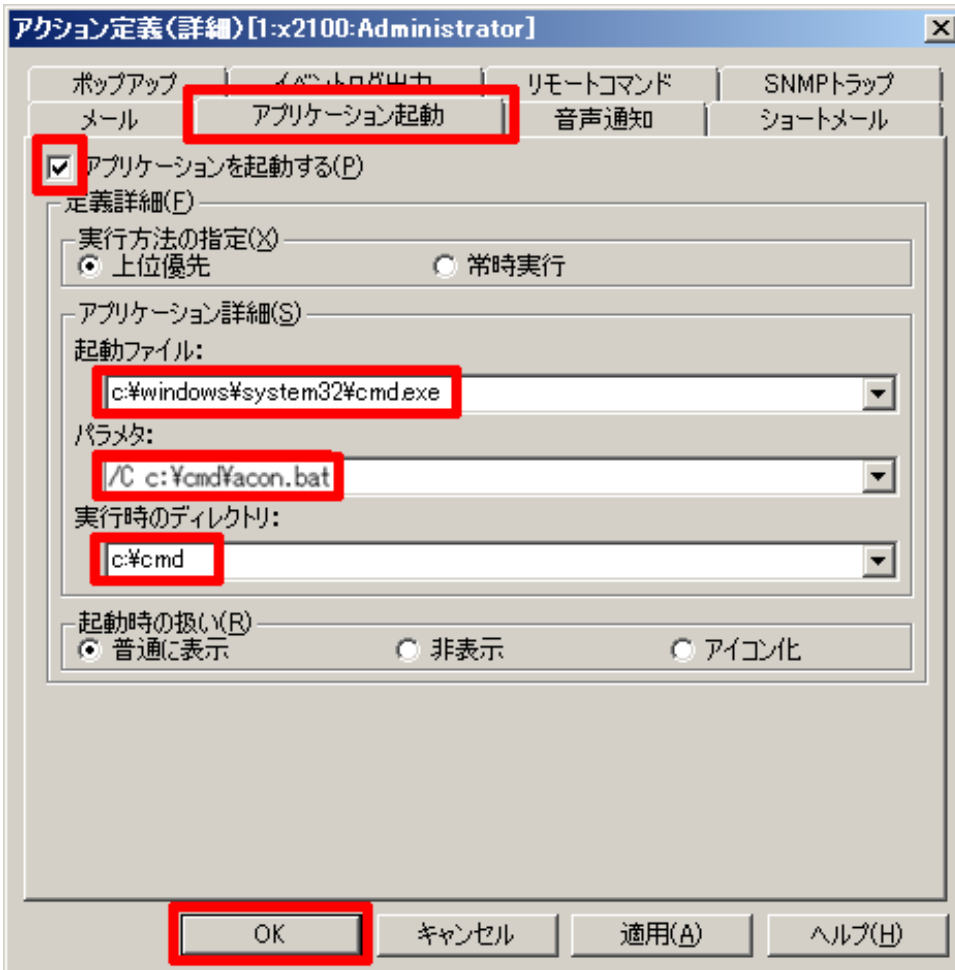
(2) 任意のイベント（トラップ）を選択して、「アプリケーション起動」（赤枠内）をダブルクリックします。



(3) 「イベント定義／アクション定義」のウィンドウが起動したら、「詳細設定」のボタンを押下します。



(4) 「アクション定義 (詳細)」 のウインドウが起動したら、「アプリケーション起動」 タブをクリックし、各項目の設定をします。



「アプリケーションを起動する」：チェックを入れます。

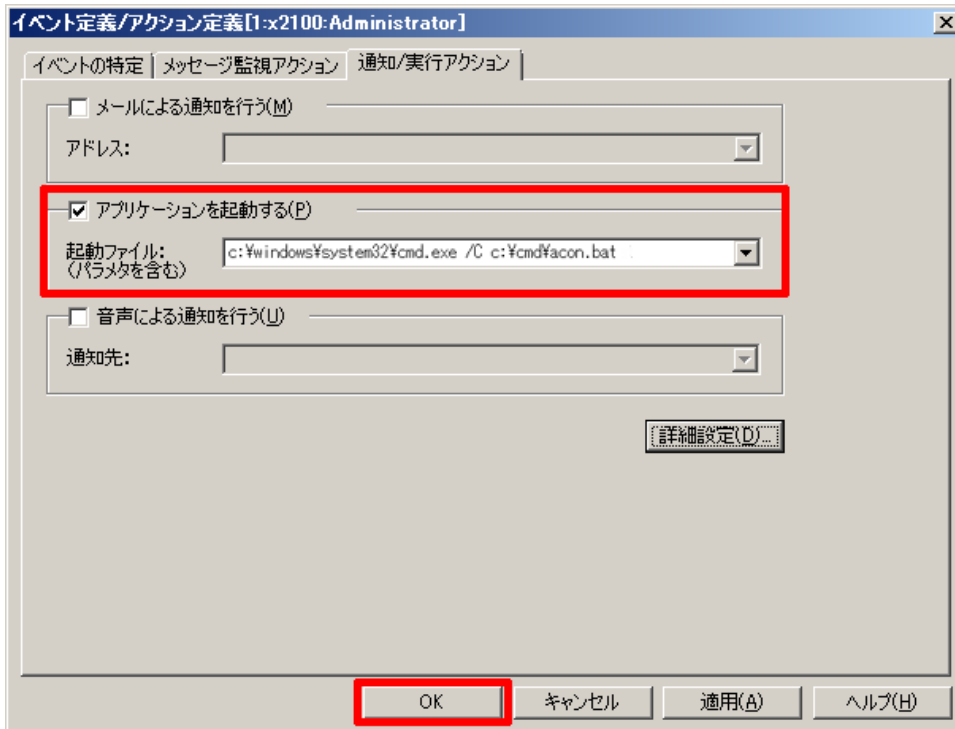
「起動ファイル」：cmd.exe をフルパス指定します。

「パラメタ」：” /C (バッチファイル名をフルパス指定) ” という形式でコマンドを記述したファイルを指定します。

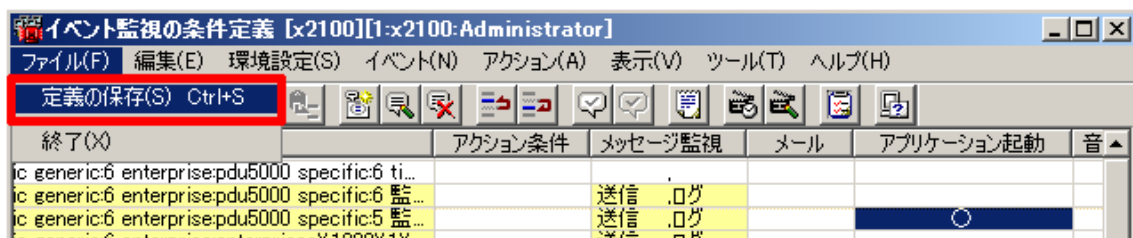
「実行時のディレクトリ」：任意の場所を指定します。

上記の指定が完了したら「OK」ボタンを押下します。

(5) 再び「イベント定義/アクション定義」のウィンドウが表示されたら、設定が反映されていることを確認します。設定が正しければ「OK」ボタンを押下して、ウィンドウを閉じます。



(6) 「イベント監視の条件定義」のウィンドウで「ファイル」 - 「定義の保存」をクリックして、設定を保存します。



以上